

兵庫のニホンザル

被害解消と絶滅防止

農作物を
荒らす

絶滅が
心配



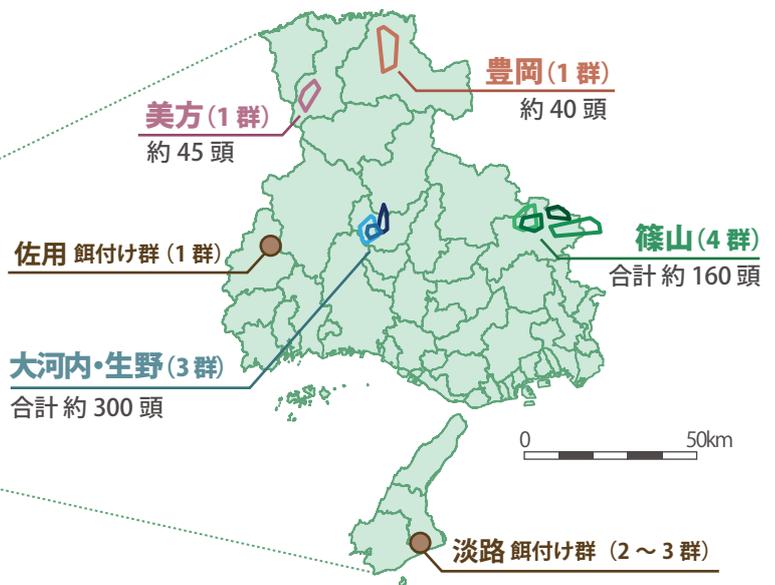
ニホンザルの分布

青森県下北半島が分布の北限。
北海道には生息していません。

鹿児島県屋久島が分布の南限。
沖縄県には生息していません。



2006年
自然環境保全基礎調査哺乳類分布調査を改変



2010年
行動範囲調査結果
個体数カウント調査結果

全国

ニホンザルは日本にだけ生息している日本固有の生き物です。サルの仲間（ヒトをのぞく）のなかで、最も北に暮らしています。

国内に広く分布していますが、東北地方の北部や関東平野、近畿地方の西部、中国地方、九州地方の北部では空白地帯が目立ち、分布が分断されている地域もあります。

兵庫県

餌付けされている群れをあわせても12～13群しか、生息していません。

但馬地方の美方や豊岡では、1群が孤立していて、地域的な絶滅も心配されています。

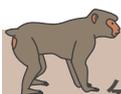
しかし、すべての群れが集落に出没し、農作物に被害を与えるなど、問題が起きています。

日本だけに
生息する



日本固有種

国内に広く
分布しているが



分布分断地域あり

県全体でたった
12～13群れ



絶滅が心配！

頭数は少なく
地域は限られているが

被害は深刻！



深刻な被害



農作物 被害 あっという間に大きな被害！

サルは群れでやってくるので、一度に広い範囲で被害が出ます。また、おいしい部分だけをかじって、次々と新しい作物に手を出すので、被害が大きくなります。



生活環境 被害 放っておくと行動がエスカレート！

人なれがすすむと、屋根に登ったり、家に入ったり、人を威嚇するようになっていきます。

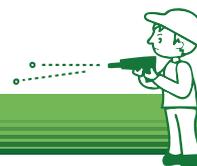


サルは本来、山で暮らす動物ですが、農作物など栄養価の高いものを安全に食べられることを学習すると、集落に繰り返し出没するようになります。被害を減らすためには、サルにとって「魅力のない」「安心できない」集落に変えることが重要です。



被害解消と絶滅防止 解決に向けた取り組み

絶滅を回避しつつ被害を減らすためには、地域と行政が一体となって、捕獲だけに頼らない総合的な対策を進めることが必要です。



地域の方の取り組み 集落に出没させない対策

防護柵でしっかり守る

サルが柵を登ると感電する電気柵や、支柱が外側にしなって入りにくいネット柵など、行動特性に応じた柵を設置します。



知らない間の餌付けをなくす

田畑に残されたクズ野菜、収穫しないカキやクリなども、サルを集落に引寄せの原因になるので、適切に処理します。



あの手この手で追い払う

ロケット花火や電動ガンなどの飛び道具で追払います。飼犬を訓練して追い払い犬として活用する取り組みもあります。



写真提供：藤村美香氏

隠れる場所をなくす

登れる木をなくしたり、ヤブを刈り払って里と山の間の見通しをよくすると、サルは集落に出にくくなります。





兵庫県の取り組み 「ニホンザル保護管理計画」に基づいた対策

※特定鳥獣保護管理計画の詳細については、森林動物研究センターホームページ <http://www.wmi-hyogo.jp/plan.html> をご参照ください。



地域の取り組み支援

兵庫県は市や町と連携して、地域主体の対策を支援しています。

1 群れの位置把握・情報発信

電波発信機を装着し、群れの位置を把握しています。被害対策に活用してもらうため、群れの位置を携帯メールや防災無線放送などで住民の方へお知らせしている地域もあります。



2 追い払い犬の育成・認定

地域の方が飼っている犬を訓練して、追い払い犬として活用している地域もあります。



3 学習会・研修会の実施

対策の基本や、効果的な柵の設置・追い払い方法を地域の方にお伝えしています。



計画的捕獲

群れが分裂しないように、絶滅するおそれがない範囲で、個体数調整をおこないます。

また、人を威嚇するなど問題行動をとるサルを選択的に除去します。



科学的モニタリング

1 行動域を調べる

群れの位置を記録し行動範囲を明らかにしています。



2 出没や人なれの程度を調べる



集落への出没頻度や人なれの程度などを調べ、対策の効果を検証しています。

3 生息頭数を調べる

毎年、生息頭数を数えています。メスや子どもの数から出産率も計算しています。



写真提供：長尾勝美氏

4 遺伝子を調べる



群れの中に遺伝的交流があるのか、遺伝的多様性は保たれているのかを調べています。



地域の方と県や市・町が連携してさまざまな対策を進めることが重要

ニホンザルの特徴

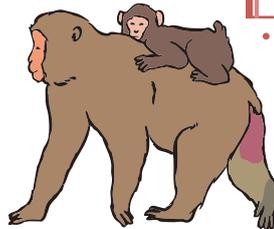
赤ん坊 出生体重：500g

・移動する時、母親の背や腹にしがみつく。



オス 体重：10～15kg 体長：54～61cm

- ・体が大きい。
- ・5～8歳になると生まれた群れを出て、他の群れに移ったり、一頭で暮らす。



メス 体重：7～13kg 体長：47～60cm

- ・生まれた群れで一生過ごす。
- ・6～8歳になると出産可能になる。野生では2、3年に一度一頭の赤ん坊を出産。

群 20～100頭

サルは群れで行動します。朝から夕方まで食べ物を探して動き回ります。群れの動きは成獣のメスが決めています。いわゆる「ボスザル」はいません。地域によってちがいはありますが、70～80頭をこえると分裂しやすくなります。

食 植物を中心にいろいろ

木の実や葉などの植物質のものを中心に食べますが、昆虫などの動物質のものも好みます。

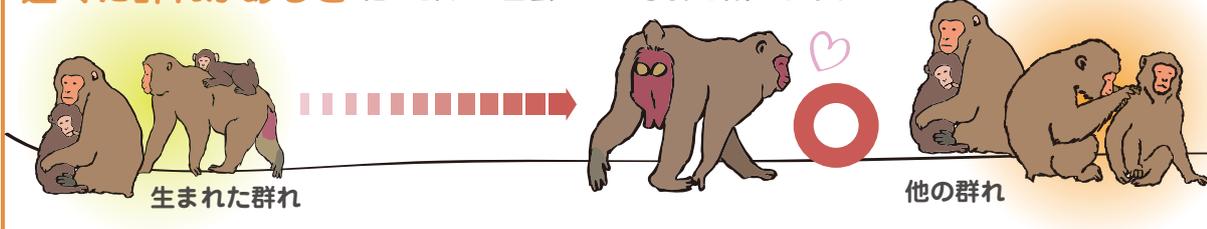
住 きまった場所で暮らす

広葉樹の林を中心に一定の範囲を移動します。植林地が多い地域では、食べ物を探して広い範囲を動き回ります。

遺伝的交流がとぼしいと…

兵庫県では群れが少ないため、群れを出たオスが他の群れに出会えず、子孫を残せない恐れがあります。また、他の地域から新しいオスがこないために、近親交配が進む可能性が高くなっています。

近くに群れがあると 他の群れに出会って、子孫を残せます。



群れが離れていると 他の群れに出会う確率が低くなり、子孫が残せなくなります。

